

生糸貿易維持救護ノ儀ニ付請願

謹而本邦開國貿易ノ得失立國ノ要務ヲ案スルニ開港以來各種ノ輸
各品ノ輸入總計多少ノ進歩ヲ見ルコトナキニ非スト雖モ悲哉數百年來
鎖國ノ慣習ハ全國ノ民情ニ深染シ容易ニ發達セシムルコト能ハス故ニ
之レヲ貿易立國ノ諸邦ニ對照シ又其事業ノ實際ヲ見ルモハ千萬言フ
ニ忍ヒサルモノアリ然レモ之レヲ數年ノ實況ニ徴スルモハ我輸出品
中獨リ蠶糸ノ輸出漸々増進レ僅ニ國家ノ利源ヲ養成シ貿易ノ權衡ヲ
保持セシトス予等積年本業ニ從事シ該貿易ノ要路ニ當リ其得失ニ與
リ以テ之レガ進退盛衰ノ係ル處ヲ實驗スルニ素ヨリ其理由アルモノ
ニシテ決シテ偶然ナルモノニ非ス然ルニ其偶然ナラサル深重細微ノ
理由アルニモ不拘近時動モスレバ之レガ組織ヲ破却シ以テ本貿易ノ
命運ヲ斷絶セシメントスルノ危急ニ陷ルモノアリ豈之レヲ默々ニ附

シ去ルコトヲ得ンヤ故ニ 貴院御多般ノ際ヲモ不願之レナ別紙ニ詳
悉シ其方法及實況ヲ開申仕候條廣ク國家ノ經濟ニ基キ予等本業ノ存
亡ニ關シ深ク前途ノ得失ヲ照鑑セラレ飽迄救護ノ方法御設定被下度
左ニ其要綱ヲ摘記仕候

別紙

第一章 本章ハ新舊各邦貿易國ノ比較及分頭收入額ヲ詳明シ本邦
國力ノ微弱貿易ノ僅少ナルモノヲ表明シ併セテ生糸貿易消長ノ
大勢ヲ畧記シ以テ本願ヲ進呈スルノ已ムヲ得ザルニ出ルモノナ
ルコトヲ記述ス

第二章 本章ハ本邦生糸輸出數年間已往ノ實歴ヲ畧記シ以テ米國
輸出増進ノ理由ヲ詳ニシ又内國農産ノ得失ヲ比較シ將來益生糸
輸出ノ輕々視スベカラザルコトヲ證明シ以テ保護法ノ萬己ムヲ得

ザルコトヲ記述ス

第三章 本章ハ生糸貿易保護ノ必用ト其方法トヲ併記シ而シテ橫
濱販賣ト海外直輸販賣トノ難易得失ヲ比較シ又内外人ノ便否ハ
專ラ國力ノ強弱事業ノ老若ニ關シ是亦保護法ノ萬己ムヲ得ザル
ノ必用ヲ論究シ併セテ保護法ノ効力及其影響ハ即チ國家經濟ノ
損益ニ波及シ又日本商人及製造人等將來ノ方針ヲ左右シ該商勢
ヲ一變セシムルノ大事アルコトヲ詳論ス

第四章 本章ハ世間普通ニ所謂橫濱販賣ト海外直輸トノ得失ニ關
シ已往現今ノ實況ヲ畧記シ又之ヲシテ橫濱販賣ノ一途ニ歸セン
ムルルハ依テ起ル處ノ弊害ハ勿論終ニ販路ヲシテ伊佛及清國等
競爭者ノ掌裡ニ專有セラルヘキハ當然ノ事實ナルコトヲ證明シ又
或ニ保護法ノ當時ニ適合セザルヘキノ疑難ニ對シ其緩急大小ヲ

區別シ以テ國家損益ノ比較ヲ詳ニセサルヘカヲサルコトヲ論明ス
詳五章 本章ハ米國紐育州ノ法律ニ備シ又同國同州商業社會ノ慣
行ニ依リ殊更保護ノ必要アル所以ヲ詳記ス

仰希クハ前各章ノ詳細別冊ニ於テ御洞覽願意御採納有之度奉請願候
也

明治廿四年一月

京都府 波多野 鶴吉

中村 忠兵衛

長野縣 柴野 周藏

窪田 榮三郎

中野 十次

竹澤 鷹三郎

山崎 義夫

山内 成太郎

箕輪 豐治

平出 平兵衛

篠原 戶市

中澤 吉四郎

永野 申太郎

岐阜縣 十樂 貞造

齋藤 佐平

武藤 喜一郎

群馬縣 久野 小作

松本源 五郎

神戶 麟太郎

德江 八郎

尾池 彌一郎

栃木縣 金手 廣作

神奈川縣 吉濱 大藏

宮城縣 高山 金八郎

高橋 藤吾

上木 本三郎

瀧口 彌兵衛

早川 桂三郎

松本 勲十郎

太田 勝十郎

深澤 愛三郎

宮下 精一

松谷 徳平

大島 正武

安東 壽

佐藤 儀十郎

山梨縣 金丸國太郎
 塚原 定藏
 埼玉縣 西澤 慎吉 大分縣 小野 健一郎
 滋賀縣 湯本 源義 山形縣 瀬原 田兵助
 靜岡縣 櫻林 宇太郎 富山縣 橋爪 友吉
 愛知縣 澤木 庄吾
 群馬縣 星野 長太郎 鹽澤 佐七
 眞下 邑三 齋藤 正二郎
 長野縣 大里 忠仁 山形縣 丸山 孝一郎
 山梨縣 風間 金八

(以下略)

生糸貿易維持方法

○第壹章 本議

抑本邦開國鎖國ノ國は一變セシヨリ内外貿易ノ進歩モ亦隨テ増進ノ傾キアルハ第一
 號表ニ照シテ明確ナリト雖モ國是ノ基本之レニ依テ確實ナルカ又之レニ價テ隆盛ス
 ベキカ宜シク深ク細視セザルベカラザルモノアリ漫ニ多少ノ増額ヲ大觀シテ欣喜ノ
 色アルモノ、如キハ決シテ識者ノ事ニ非ズ乞フ試ニ一國民ノ分頭ニ對スル比較ヲ詳
 覽セヨ即チ英佛ノ舊國ニ對スルモノ及米濠ノ新國ニ對スルモノ總テ其數ニ當ルモノ
 ナキノミナラス又之レヲ歲出入ノ分頭ニ對照シ見ルハ悲歎言フニ忍ビザルモノア
 リ國運ノ前途國家ノ強弱又之レヲ詳説スルニ忍ビザルナリ然ルニ或ハ云フ抑本邦ハ
 西洋各國ト其生産經濟各其事情ヲ異ニシ數百年間東洋ノ邊隅ニ在テ鎖國獨立有無交
 通貿易ノ利ニ依ルモノニ非ザルガ故ニ徒ニ之レヲ西洋ノ貿易國ニ比スルハ大ニ其當
 ヲ失フモノナリト夫レ或ハ然ラン然レモ既ニ開國ノ國是安ニ定マリ世界交通貿易ノ
 得失ハ現ニ國家ノ盛衰ヲ致シ國民ノ安危ニ關スルヲハ目前已ニ見ル處ノ事實ニシテ

假令從前ノ慣行ハ其如何ニ不拘俄然國是ノ方針一變スルト同時ニ國民一般官民ヲ問
ハズ一意此貿易ノ進否ニ向ヒ以テ臣民ノ本分ヲ盡シ我

皇室ヲシテ泰山ノ安キニ置キ維新ノ方針ヲ大成セザルベカラズ予等素ヨリ實業ノ經
驗ニ乏シク且經濟ノ學識ナキモ猥リニ實業ニ從事シ以テ 皇恩萬分ノ一ニ報ゼ

ント欲スルコアルモノ一ニ此貿易表ニ於テ積年々ニ感ズルコアルヲ以テノ故ナリ然
シテ又第貳號輸出表ノ示ス處ニ依ルニ本邦輸出品中其大部ヲ占メ以テ國家ノ利源ヲ
左右シ國民一般ノ經濟ニ影響セシムルコアルモノハ生糸ヲ以テ第一トス若シ之レヲ
シテ或ハ伊佛ノ爲メニ制壓セラレ又ハ清國ノ爲メニ販路ヲ遮斷セラル、ガ如キコ
ルニ於テハ恐クハ國家ノ大事又之ヨリ大ナルモノナカルベシ強テ之レヲ約言スレバ
生糸貿易ノ進否ハ實ニ國家ノ貧富ニ關シ 皇威ノ強弱ニ與ルコアルモノナリト

言フモ敢テ過言ニ非ザルベシ即チ貿易表ノ實數之レナリ予等數年間此生糸業ニ從事
スルモ亦決シテ其謂レナキニ非ズ然レモ數百年來鎖國ノ慣習ハ依然トシテ全國ノ民
情ニ深染シ外國貿易上ノ思想未ダ發達セザルヲ以テ此難局ニ當ルモノ僅々指チ屈ス

ルニ足ラス隨テ其實驗ニ乏シク又隨テ其組織ヲ完備セズ其レ如此ニシテ輸出現品ノ
生糸ハ正ニ開明國ノ市場ニ消費セラレツ、アルモ恰モ愛子ヲ投ジテ幾千里外ニ放棄
シ其爲ス處其行ク處ヲ知ラザルモノニ異ナラズ然ルニ彼レ外國人等ハ又之ニ反シ已
ニ數百年來外國貿易ノ實驗ニ富ミ隨テ其組織ヲ完備シ又貿易上必要ノ資金ト其信用
ヲ運用シ進退抑揚自由ノ境界ニ在ルモノナルヲ以テ之レニ對シ競爭ノ事業ヲ經營セ
ントスルモ其資力ノ金利ニ於ケル又組織上ノ完否ニ於ケル假令二三實業上ノ經驗彼
レニ讓ラザルモノアリト雖モ數個ノ弱點アルヲ以テ勢ヒ彼レニ及ブコト得ズ果シテ
然ラバ斷然浪守ノ一策ヲ採リ橫濱以外ハ總テ之レヲ外人ノ一手ニ委任シ愛子ノ喜憂
其死生ヲモ之ヲ聞クコト得ザルノ境界ニ坐睡スベキヤ若シ一朝如此ノ悲境ニ沈ムコ
アルキハ又浮揚ノ期ナキハ勿論況ンヤ從前官民協力ノ精神ニ依リ幾多ノ艱難ヲ涉リ
漸クニシテ該生糸ノ製造及販路ヲ開發セシメ細クモ其消息ノ命脉ヲ連絡シ來リタル
ノ實蹟アルニ於テサヤ今ヤ幸ニシテ政体一變國會開設ノ盛運ニ當リ即チ該業已往現
今ノ狀況ヲ詳ニシ本案ヲ呈出スルモノニ 皇政一新開國ノ主義ヲ發達シ國家隆

盛ノ基礎ヲシテ爰ニ初メテ確實ナラシメンコトヲ欲スルモノニシテ又國家ノ實況萬已ムヲ得ザルノ致ス處決シテ世間普通ニ所謂勸奨論者ノ如キモノニ非ザルコトハ第一第二ノ計表ニ照シテ之レヲ照覽セララルベシ

○第貳章 本邦生糸輸出ノ實況

第三號表 輸出先國別表

本邦生糸輸出ノ連年増進シ來ルモノハ已ニ本表ノ示ス處ニ依テ明瞭ナリト雖モ其如此ニ増進シ來リタルモノヲ細觀スレバ要スルニ歐州ヘノ輸出増進シタルモノニ非ズシテ單ニ米國ノ新販路ノミニ向テ増進シタルモノナルコト亦明カナリ又其米國ノミニ向テ増進シタルモノハ大ニ其原因深キモノニシテ決シテ偶然ノ故ニ非ズ左ニ之レヲ細説スベシ

第四號表 内國商直輸表

之レニ依テ之レヲ見レバ明治十三四年頃一時生糸直輸者ノ數凡九個アリト雖モ漸次

廢却シ現今殘ルモノ僅ニ貿易同仲ノ二者アルノミ其如此ニ減却シ去ル所以ノモノハ素ヨリ種々ノ事情アリテ今之レヲ枚擧スルニ遑アラズト雖モ就中貿易同仲ニ社ノ輸出數ニ就テ特ニ之レヲ詳説セザルベカラザルモノアリ即チ貿易ノ如キハ連年ノ輸出或ハ増減シ又ハ斷續スルモノアリ同仲ノ如キハ市況ノ如何ニ不拘連年連續シ且其員數ヲ増進シ來リタルモノアリ(廿一年以來更ニ減退シタルモノハ御用爲替ノ困難起リシニ依ルモノナリ)其如此ノ區別ヲ生ジタルモノハ何ゾヤ

○貿易 明治十三年創立

該社業務ノ目的ハ單純ナル商業的ノ目的ヲ以テ業務ヲ營ムモノナルガ故ニ内
外市場系價ノ高低ニ隨ヒ或ハ利アルモノトスルヤハ之レヲ輸出シ又之レニ反
スルノ場合ニ於テハ之レヲ中止スルコトアルガ故ニ現ニ本表ニ示ス處ノ結果ヲ
顯スモノトス

○同仲 明治十三年創立

該社業務ノ目的ハ左ノ三種ヨリ成立セシモノトス

第一 内地各地方ノ製造家ニ於テ直輸出ノ利益ヲ感得シ之レガ社團ヲ結ビ以テ各自ノ製造品ヲ直輸シ併セテ販賣上ノ得意ヲ増發セントスルヲ

第二 各自ノ製造品ヲ直接消費者ノ手ニ入レ以テ彼レ消費者ノ使用上ニ於テ其便否得失ヲ研究シ益々其需用ニ適セシムル製造ヲ勉メントスルニアルヲ

第三 横濱市場ニ於テ從前ノ慣行ニ依リ其生糸ノ精粗ヲ區別スルノ明ナキノミナラズ當ニ内外商人ノ制壓ヲ蒙リ海外市場系價ノ何物タルヲ知ラズシテ之レヲ五里霧中ニ賣却シ去ランヨリ寧ロ海外ノ消費者ニ直賣シ横濱港ノ門關ヲ開キ以テ適度ノ系價ヲ得ントスルニアルヲ

前二社ノ目的其如此ノ差違アリシヲ以テ貿易ハ輸出斷續ノ蹟ヲ顯シ同伸ハ追年消費者ノ信用ト製造ノ適當トニ依テ以テ其輸出ヲ増進連續セシメタルモノナリ宜シク深ク注目セザルベカラザルノ要點ナリ而シテ此地方製造家ヲシテ如此ノ目的ヲ發揚セシメタルモノモ亦偶然ノ故ニ非ズ又同伸ノ事業ヲシテ如此ニ之レヲ存續セシメタルモノアリ左ニ之レヲ細説スベシ

紳商等生糸ノ我國ニ輸入セシモノハ其初英商ヲ經テ直輸入アリシト雖モ當時本邦ノ生糸タル所價極廉是糸ノ製ニシテ我國棉屋ノ幼弱不派ナル如此ノ粗造品ヲ使用セシコト能ハズ故ニ我國ニテハ日本生糸ノ不買ヲ唱ヘ一且之レヲ輸入ヲ斷絶スルニ至レリ(明治二三年頃)然ルニ明治ノ始メヨリ我内地ニ於テハ官民一般生糸改良ノ必要ヲ説キ(信用ニハ各所小規模ノ製法起ルアリ)ト期ニハ商榷ニ又富岡ニ三吳州ニヤニ製法ニ(其他)下野ニ伊予ニ東京ニハ工部省ニ築地ニ(律)ニ五十年間ニシテ漸々之レヲ開設スルノ時運ニ至レリ此際我政府ハ(明治七年)内務省ヲ置キ勸業寮ヲ設ケ蠶蠶民業ヲ開墾セントスルノ精神アリシト以テ在米國日本領事ト協議シ蠶桑園販賣ヲ開墾セシメントスルノ計畫ヲ企テ現ニ(明治八年)勸業寮員ヲシテ精良各種ノ見本ヲ携得セシメ我國ニ派遣シ以テ當時ノ機杼及使員人等ニ之レガ販路ヲ試マシムルニ至レリ然ルニ我國ニテハ前記ノ如ク日本生糸ハ一概ニ前掲提糸ノ如クナルモノナリト確信シ此精良蠶ノ生糸ハ必ズ他國製ノモノナラントノ疑感ヲ唱ヘ之レヲ信ズルモノ若ク稀ナリ故ニ其注文ニ此點ヲ之レガ請求ニ應アルノ端ヲ同キ從前ノ疑團ヲ

永解スルニ至レリ是レ明治九年頃ノ事ナリトス爾來米價ニテ需用ノ發達漸次其多キ
ヲ致スニ從ヒ到底二三箇年ノ間機械所ニテハ之レヲ需用ヲ充スト能ハザルノ勢セアル
ナリテ四ヶ箇便法ヲ專ラ米價需用ノ要點ヲ探リ「デニール」ヲ均一ナラシムルコトヲ提
シニ達成ナラシムルコト」等ノ大要目ニ注シ上州ニテハ坐鎮揚返シト唱ヘ興州ニテ
ハ振印ト唱ヘ一種ノ改正ヲ加ヘタルモノヲ鑄出シテ米價需用ニ應ズルコトヲ勉メタリ
然レモ其之レヲ輪出シ且ツ之レニ附帶スル金融上ノ如キハ民間其業ニ當ルモノナキ
ヲ以テ其當時ハ勸業寮ニ於テ其需用ノ適否ヲ審査シ之レヲ一旦同寮ニ買上ケ更ニ之
レヲ米價ニ販賣シ其差額ヲ製造人ニ附與スルコトヲ法ヲ設ケ以テ取路上ノ便ヲ與ヘタリ
(是レ海外荷爲替ノ體備トス)

前文其買入レト販賣トノ差益ノ如キハ之レヲ振濱ノ市價ニ比較シ一個ニ付小ニシテ
七八拾圓乃至百圓大ニシテハ百七八拾圓乃至貳百圓ノ多キニ至ルコトナリ其然ル所以
ノモスハ開港以來本邦生糸ハ振濱ノ一港ニ運斷セラレ外人ノ納付スル價格ニ隨テ販
賣ノ盛ニ海濱市場至價ノ何物タルヲ細テザルノ致ス處ニシテ此價格ノ差ハ全國製糸

業者ノ知ラズ識ラズ損失ヲ爲セシモノタルコト明カナリ如此ノ損益ヲ實驗シタルガ故

ニ民間ニ於テモ一二米國ニ支店ヲ開クモノアルニ至ル(明治九、十年頃)其如此ニシ
テ漸次米國ニ於テ日本生糸ノ需用發達スルノ勢ロアルニ隨ヒ外國人等モ(即チ米國
向キ)銳意之レニ着手シ終ニ今日ノ盛大ヲ見ルヲ得是レ即チ内地製造家ヲシテ前記
十三年同仲會社三項ノ目的ヲ發起セシメ該社設立ノ機運ニ達セシメタルノ原素ナリ
トス然レモ亦同社ヲシテ此事業ヲ存續盛大ナラシメタルモノハ他ニ一種ノ大ニ之レ
ヲ補翼スルモノアルヲ以テナリ更ニ其所以ヲ説明スベシ

明治十年西南ノ役ノ爲メニ政府ハ巨額ノ紙幣ヲ増發シ大ニ此整理ニ苦シミ又海外送
リ爲替金ノ不便等各種ノ困難ニ際會シ終ニ明治十三年橫濱ニ正金銀行ヲ設立シ以テ
海外直輪貿易ヲ獎勵シ其輸出品ニ向テ爲替金ノ便利ヲ與ラルニ至レリ該直輪ノ獎勵
論ハ一時暴發ノ勢ヒアツテ却テ民業ノ秩序ヲ紊亂シ爲メニ直輪ヲ失策ヲ醸シ正金銀
行政府ニ於テモ其損害ヲ蒙リシノ蹟アリト雖モ是レハ此レ直輪論ノ浮動ニ依ルモノ
ニシテ着實正當該種爲替ノ便利ニ依リ其業務ヲ增進シ併セテ政府及正金銀行ヘモ聊

カ損害ナカラシメタルモノナキニアラズ即チ同伸會社ノ如キモノ是レナリ識者宜シク玉石ヲ混交スルコ勿レ然レモ日米生糸貿易ノ發達ハ前來述記スルノミニ止マラズ尙他ニ之レヲ助勢スルモノアリ左表ニ於テ之レヲ見ルヲ得ヘシ

第五號表 米國生糸輸入累年表

米國ノ隆盛發達ヲ致スモノハ獨リ織物業ニ止ルニ非ズト雖モ就中絹織物ノ如キハ政府ニ於テ非常ノ保護ヲ與ヘ多額ノ輸入稅ヲ課ス（本年迄ハ五割稅本年十月ヨリ更ニ之レヲ增加シ平均凡六割ニ當ルモノトス）其如此ニシテ銳意内國製ヲ獎勵スルモノアルヲ以テ生糸ノ需用日ニ月ニ増進スルノ時機ニ投シ日本生糸ハ前述ノ如ク新入シテ其得意ヲ求ムルノミナラズ專ラ彼レ需用ノ便否ヲ研究シ直接（同伸會社ノ手ヲ經テ）之レヲ内地ノ製造家ニ傳達シ製造家ハ又更ニ之レニ應ズルノ現品ヲ賣却シ其利害ヲ試ミ速々其研究ヲ進メ愈益得意ヲシテ満足セシメタルノ結果トシテ從前米國ノ市場ニ需用セラレタル歐洲及ビ支那産ノ輸入生糸ヲ壓倒シテ終ニ計表ノ示ス如ク該市場一等ノ進歩ヲ見ルニ至レリ（直輸出實驗ノ上彼ノ市場ニ聲價ヲ得ルノ場合ニ達

スルモノハ忽チ橫濱市場ニ其聲價ヲ移シ來リ直輸品ノ轉ジテ橫濱トナルモノハ普通ノ景況ナリ）更ニ之レヲ約言スレバ

一 本邦生糸ノ輸出ヲ増加セシメタルノ販路ハ歐洲ニ増ストチタ單ニ米國新聞ノ市場ニ在ルモノトス然シテ米國販路ヲ如此ナラシメタルモノハ左ノ五項ヨリ成立セ

一 米國市場ヲ新聞セシモノハ政府ノ率先ニ基源スルモノニシテ人民ノ之レニ應ズルノ宜シキヲ得タルモノトス

二 人民ノ之レニ應ズルコトヲ得タルモノハ明治ノ初メヨリ已ニ各々生糸改良家（官民共ニ）ノ着手セシモノアリシヲ以テナリ

三 又特ニ米國市場需用ノ適否ヲ研究シ之レヲ内地ノ製造家ニ傳達シ以テ消費者ト製産者トノ連絡ヲ貫徹シ不知不識改良ノ方針ヲ與ヘ終始改良品ノ試驗業ヲ進マシメタルモノハ同伸會社ナルモノアルヲ以テナリ

四 又此同伸會社ノ自的ヲ貫徹セシメ之レヲ連續發達セシメタルモノハ即チ正金

銀行御用爲替ノ起ル有テ能ク其金融ヲ圓滑ナラシメ販路ヲシテ困シマシムルコトナキヲ以テナリ

五 又之レヲ大成セシモノハ米國百般ノ發達ト又特ニ同國政府ニ於テ織物業ヲ保護スル厚キノ時運ニ投合スルヲ得タルモノアルヲ以テナリ

右ノ五者相湊合シテ互ニ連帶之レヲ援助シ離ルベカラザルノ關係ヲ有シ以テ第三表示ス處ノ増進ヲ致シタルハ之レヲ事實ニ照シテ疑フベカラズ然ルニ去ル明治二十年度ニ至リ前第四項ニ記ス正金銀行御用爲替ノ一項將ニ廢セラレントスルノ變動ヲ生シ又從テ第三項同伸會社ノ業務モ共ニ々々永續スルコト能ハザルベキノ景況ヲ呈顯シ當路ノ社員等百方計畫今日ニ於テハ正金銀行ノ厚意勉勵ニ依リ僅ニ其命脈ノミヲ維持スルモノアルガ如シト雖モ素ヨリ一時ノ假法ニ止リ況ンヤ前陳スルガ如ク

第一 本邦高利國ノ資本ヲ移シ米佛低利國ニ運用セシムルガ如キハ銀行者及輸出業者ト雖モ損益上ノ數理ニ於テ之レト爲スコト能ハズ即チ國力ノ強弱民力ノ比較彼レニ及ハザルノ致ス處ナリ

第二 米國生糸直輸業ノ組織五個ノ關係幸ニ能ク湊合シテ成立セシモノナリシヲ俄然其一(即チ正金銀行御用爲替)ヲ欠クガ如キハ恰モ人身湊合体ノ一原素ヲ欠クモノニ異ナラズ奚ゾ得テ生息シ得ベキノ理アルコトナシ

第三 現今米國生糸ノ貿易ハ明治十一、二年ノ頃新開ノ年度ト異リ其數已ニ二萬個以上ノ巨額ニ上ルモノナルヲ以テ全ク其景況ヲ一變シ數百年間外國貿易ニ實險アル外國人等ノ最モ競争スルモノナルガ故ニ内國直輸業者ハ勢ヒ之レニ抑制セラレ之レヲ發達シ能ハザルモノアリ況ンヤ從前漸クニシテ組織シ來リタル彼ノ前五個ノ一個ヲ欠クノ不幸アルニ於テチヤ

是レヲ以テ之レヲ見レバ到底本邦人親シク直輸業ニ當リ彼ノ同伸會社創立ノ目的ノ如キ事業ハ之レヲ廢滅ニ歸スベキモノト斷定スルノ外ナキナリ然レモ更ニ眼ヲ轉シテ深ク國家ノ利害ヲ鑑ミ又退テ本邦農產業ノ得失ヲ察スルハ現ニ第六號表(日本農產損益比較表)ニ示ス如キノ比較ヲ生ズルモノアリ果シテ然ラバ我民業ノ追年衰凋ノ業ニ傾キ以テ家産ノ増進ヲ勉ムベキハ又人情數理ノ免レザル處ナリ若シ此製産

品ヲシテ猥リニ多額ヲヲシムルノミニシテ深ク其消費者ノ便否得失ヲモ省ミズ徒ニ
暗黒中ニ之レヲ製造シ又之レヲ橫濱港ノ雲霧中ニ販賣セントスルモ決シテ之レヲ賣
却シ終ルベキノ目的ナキハ今更論ヲ待ツベキニ非ズ即チ販路滯滞系價ヲ低落シ又隨
テ粗製セザルヲ得ザルノ數理ニ陥リ又隨テ消費者ノ嫌惡ヲ來シ又隨テ販路ヲ停滯シ
一者循環シテ本邦生糸ノ品位ヲ下劣ヲラシメ彼ノ競爭者タル伊佛產ニ其得意ヲ掠奪
セヨレ支那製ニ市場ヲ填塞セラル、ニ至ルコトハ當時伊國ノ競爭支那製ノ改良ニ微シ
テ又明ナリ夫レ如此ニシテ外ニハ強敵ノ前ニ迫ルアリ内ニハ直輸業ノ命運已ニ盡シ
トスルモノアリ又近年製造家ノ精神決シテ從前ノ如クナルコト能ハズ（上州地方製造
ハ或ル一部分ヲ除ク外總テ粗惡ニ流シ漸次直輸ヲ廢スルニ至リ又信州地方ノ如キモ
之レヲ四五年前ノ器械精製ナルモノニ比スレバ徒ニ其外見即チ橫濱市場ニ適合スル
モノヲ勉メ真正ノ糸質ニ至テハ大ニ退歩スルモノアリ）嗚呼本邦生糸ノ運命モ亦恐
クハ西山落日ノ勢ホアリ永ク本邦ノ利源トシテ依據スルコトヲ得ベキモノニアラズ其
之レヲシテ如此ナラシメタルモノハ其原因素ヨリ一ニシテ足ラズト雖モ要スルニ明

治十二、三年以來政府ノ方針何トナク勸業ノ精神ヲ冷却シ單ニ政府部内ノ組織ニノ
ミ偏長シテ却テ全國一般經濟ノ本源ヲ顧ミルニ遠アラザルモノ、如ク即チ御用爲件
ノ廢止ニ至ルモ亦其影響トシテ見ルベキノミ一時本業ノ開進ヲ致シ漸ク今日迄ノ盛
況ヲ示シタルモノハ即チ明治七、八年以來政府勸業ノ精神其厚キヲ致シタル賜ナリ
ト言ハザルベカラズ以上即チ生糸貿易消長ノ大畧ヲ記スル如此ノ實況ニシテ愈益之
レヲ放任シ去リ又其往ク慮其爲ス處ニ任ズベキモノトスルカ深ク百年ノ大計ヲ思ハ
所謂開港立國ノ方針ヲ勉メ維新ノ事業ヲ大成セントスルコトハ此大事ノ利源ヲ放棄シ
當時他ニ何ノ依ルベキモノアツテ以テ立國ノ基本ヲ養成スベキカ其利源ノ關係素ヨ
リ如此ノ大事ナリト雖モ其之レヲ發達セシムルノ方法ニ至リテハ已ニ從前之レヲ實
踐スルノ經驗アリ其事甚ダ小ニシテ此大事ヲ爲シ得ベキノ方法ナキニ非ズ只要スル
ニ政府ハ該事業ニ對シ一ヶ年拾萬圓以上乃至三拾萬圓ニ滿テザルノ金員ヲ擲却シ以
テ永遠ノ利源ヲ養成スルノ勇アルヲ以テ足ルベキノミ其方法ハ左ノ如シ

○第三章 生業販路維持方法

其要目左ノ如シ

第一 日本商人ヲシテ我生系ノ販路即チ米國紐育佛國里昂ノ如キ消費者ノ實際ニ直接シ其需用上ノ便否即チ利害ノ要ヲ知ラシメ現今ノ如ク橫濱港ニ座臥シ徒ニ在濱外國人等ノ譯色ヲ窺ヒ地方荷主ニ向テハ需用地ノ正真ナル實況ヲ報告スルヲ能ハズシテ大ニ市況ヲ誤ルガ如キ弊害ナカラシムベキ

第二 橫濱港ニ於テ徒ニ在荷ヲ積累シ其爲ス處ヲ知ラズシテ終ニ買氣ヲ薄弱ナラシメ大荷販ヲ賣崩シテ全國ノ經濟ヲ動搖セシムルガ如キ弊害ナカラシムベキ(現ニ本年ノ如キ)

第三 外國消費者ト内國製造者トノ直接賣買ヲ増進シ以テ一般ノ製造家ヲシテ不識々々需用者嗜好ノ製造ヲ爲サシメ徒ニ其正真需求ニ乏シキ彼ノ外見上ノミノ虛飾製及監造又ハ使用上ノ適否ニ不關モノヲ増進シテ將來ノ不信用ヲ來シ不慮ノ損失ヲ蒙ムルガ如キ弊害ナカラシムベキ

第四 直輸出ノ増進スルアルハ勢ヒ橫濱ノ在荷ヲ内外ノ各市ニ散布スルモノナルヲ以テ市場自然ノ變動ヲ活潑ナラシメ在濱内外商人等ノ取引ヲ公平ニシ終ニ開港以來言フベカラザルノ積弊ヲ洗除シ併セテ其價格ヲシテ内外公平ナラシムベキ

前第四項ノ目的ヲ達セシムルノ方法左ノ如シ

第一 日本、~~在濱~~兩銀行ノ内ニ訓令シ利子保護ノ法ニ隨ヒ海外市場(米國紐育佛國里昂府)ニ其原資金ヲ廻送シ置カシメ左ノ便宜ニ供セシムベキモノトス

但海外ニ於テ現ニ使用シタル處ノ金高ニ應ジ該銀行一ケ年利子配當ノ割ニ隨ヒ國庫ヨリ之レヲ補助スベキモノトス

右利子保護ノ金高ハ年々ノ商況ニ依リ之レヲ豫定シ難キモノアリト雖モ當時ノ現況ニ照シ見ルハ凡壹百萬圓以上貳百五拾萬圓ニ過ルヲナキモノトス又此金高モ一ケ年通計スベキモノニ非ザルヲ以テ其準備ハ凡壹百萬圓内外ナルベシ之レニ依テ之レヲ見レバ其利子凡壹割ナリトスルモ國庫ノ支出ハ僅ニ拾萬圓ニ過ラズベカラズ

第二 該金員ノ使用法ハ正金銀行(又ハ在橫濱外國銀行ニテモ)ヨリ爲替附ノ生糸前
兩府へ輸送シ來ルトキハ其爲替ノ仕拂金ニ充タシメ即チ此仕拂ノ爲メ使出シタル
金員ハ直ニ生糸抵當ノ貸與金トナリ生糸ハ又轉ジテ該金員ニ對スルノ抵當品トナ
ルモノトス而シテ該抵當品中見本品トナルベキモノハ其取扱商人(日本人ニ限ル)
ニ貸與シ以テ其販賣方ノ運用ヲ便利ナラシメ然シテ又賣買ノ約定ナルキハ其抵當
品ヲ附與シ之レニ代ルニ代金收入ノ期限ニ當ル手形ヲ受取り之レヲ以テ生糸ノ抵
當ニ代ラシムルモノトス

第三 前第二項ノ取扱方ハ從前御用爲替ノ例ニ倣ヒ總テ正金銀行ヲシテ之レニ從事
セシムルモノトス

第四 内地ヨリ海外へ輸出スベキ爲替荷ノ仕拂期限ハ總テ參着後十日以內トナシ荷
物到着ノ上ハ速ニ前第一項ノ法ニ隨ヒ抵當貸金ノ性質ニ變換シ以テ正金銀行又ハ
外國銀行等ノ海外爲替金ノ運用積還ヲ迅速ナラシムベシ

第五 海外爲替荷ノ相庭ハ其當時ノ普通ニ依ルベキモノトスルモ該抵當貸金ノ性質

ト轉換シタルキハ年五朱ノ割合ヲ以テ之レヲ荷主ヨリ徵收スベキモノトス
右五朱金利ノ使用法ハ左ノ如シ

○貳朱 正金銀行ノ手数料トシテ之レヲ該行ニ收メシムベシ

○三朱 年々積立置キ賣先破産補填ノ準備ニ供スベキモノトシ正金銀行ニ於テ之
レヲ保管セシムベシ即チ本金ノ性質ハ單ニ破産準備ニ供スルモノトシテ國庫ノ
所有ニ屬スルモノナリト雖モ之レヲシテ國庫收入額ニハ算入セズ年々其増減ヲ
報告セシムルニ止ルモノトス

此準備ヲ設クルモノハ現ニ米國ノ景況タル百業皆瀕瀕ノ度ヲ感スレハ危
險ニ陥ルモノアルハ本國普通ノ實際ナルヲ以テ荷シタモ此生糸業ヲ發達セシメテ
ルベカラザルノ爲メノ故ニ米國ニ向テ本業ヲ營業ムルハ之レト同時ニ又此準備ヲ欠
クテ得ザルモノトス而シテ若シ該破産ノ危險ヲ生ズルコトアルキハ其實況ナ固查
シ該積立金ヲ以テ適宜之レヲ補填シ以テ直輸業者ノ安全ヲ保マシメ益々農産者ノ
シテ勇進ノ氣力ヲ養成セシムルノ具トナスベシ

第六 本法貸金ノ取扱ハ之レチ正金銀行ニ於テ貸借セシムベシト雖モ其監督ハ在留領事官ニ之ヲ任ゼシメ貸與金ノ出入年々口抵當品ノ員數種類等ヲ精査シ毎便外為省ニ報告セシムルハ勿論若シ破産ノ危懼ニ係ルモノアルモハ更ニ其狀況ヲ調査シ具ニ之レチ同省ニ報告セシムルモトス

以上ノ方法ハ民力ノ消長貿易ノ景況ニ依リ又大ニ變換セザルベカラザルノ時機ナキヲ保スベカラズ故ニ其年限ヲ十ヶ年ト定メ該年間ハ之レチ存續スルモノトシ以テ該業者ヲシテ其目的ヲ豫定セシムルヲ得セシメ滿期ニ至リ其當時ノ實況ニ徴シテ更ニ其方法ヲ定ムルモトス

此方法ノ類キハ即チ御用爲替實施中幾回ノ危險ニ投ズルコトアルモ百折不撓終ニ今日ノ盛況ヲ現出セシメタル有功ノ方法ニシテ決シテ新案奇策ナルモノニ非ズ即チ御用爲替ノ廢止ニ依リ本法ヲ以テ更ニ之ニ代ラシメ前記直輪貿易上ノ組織ニ於テ欠クベカラザルノ一項ヲ補填シ以テ直輪業ノ組織ヲ完備セシムルニ止マラズ

又當時橫濱市場ニ於ケル生糸販賣上ノ實況ヲ參照スルニ製造地ヲ以テハ各銀行ノ競争シテ地方荷爲替金ヲ貸與スルモノアリ又本港ニテハ各問屋ノ競争シテ爲替仕拂ヲ引受ケ之レガ荷受ケヲ爲シ其爲替仕拂金ノ資金ハ日本銀行ヲ始メ内地各銀行ノ該生糸ヲ抵當トシテ之レヲ貸與スルニ怠ラズ而シテ其貸與金ハ實際生糸販賣現金收入ノ上之レチ返金スルモノ、如クノ慣行ニシテ加之各問屋ノ聊カ資力アルモノハ地方製造家ノ甘心ヲ得シガ爲メニ爲替前貸ト唱ヘ各製造家即チ荷主ニ向テ原料品(即チ繭)ノ買入レ資金ヲ貸與スルモノアリ如此銀行及問屋等ノ競争市場ナルヲ以テ其製造家ハ勿論亦橫濱問屋ノ如キモ敢テ巨額ノ資本ヲ要セズシテ巨多ノ生糸ヲ製出シ又之レヲ問屋ニ於テ荷受販賣スルノ便アリトス當時恐クハ日本内地ノ製造品ニシテ如此ノ利便ヲ有シ無資本ニシテ業務ヲ爲シ得ルモノハ決シテ他ニ其比ヲ見ザルモノトス然ルニ之ニ反シテ彼ノ海外直輪ノ如キハ御用爲替ノ廢止セラレシ以來普通商業上ノ組織ヲ失フノミナラズ現ニ之レチ橫濱ノ至便至利ナルニ比シ素ヨリ霄壤ノ差アルヲ以テ勢ヒ近來直輪ノ減退ヲ見ルニ至ルモ亦其謂ハレナキニ非ズ試ニ其一二ヲ摘記スレバ左ノ如シ

第一 橫濱荷受間屋（海外直輸ニ比シ）ノ如ク荷主即チ製造家ニ對シ其荷受ケテ競争

スルモノナキコト

第二 橫濱ニテハ荷着ノ上該荷物ニ對シ前記ノ如ク之レヲ抵當トシテ資金ヲ貸與スルモノ（現ニ本年ノ如ク三萬個以上ノ多額ヲ維持シ積滯セシムルコトヲ得ルモノハ此貸與者アルノ力ナリ）アルガ故ニ地方爲替ノ取組者ニ於テ聊カ金融ノ不便ヲ感ズルモノナシト雖モ海外ニテハ此荷物抵當貸金者ナルモノナキガ故ニ海外爲替ノ取組者（即チ正金銀行ノ如キ）ニ於テ其困難ヲ感ズルハ勿論隨テ爲替取組ノ積滯ヲ起シ之レヲ橫濱ニ比較シテ其發達ヲ抑制セラルモノトス

第三 前第二項ノ事情アルヲ以テ資本者即チ銀行ニシテ海外ニ於テ爲替金ノ仕拂ニ猶豫ヲ與フベキカ或ハ又應分ノ資金ヲ準備シ彼ノ橫濱ニ於ケルガ如ク生系抵當ノ貸金ヲ爲サントスルカ金利ノ高抵内外國ノ差違アルニ於テ勢ヒ之レヲ爲スコト能ハズ果シテ然ラバ輸出業者自身ニ於テ荷主ニ代リ銀行ニ對スル爲替仕拂ノ準備金ヲ置カントスルカ是亦銀行ト同情ニシテ到底爲シ能フベキモノニ非ズ然ラバ則チ之

レヲシテ強テ内地利于ノ比例ニ見合セ收入セントスルハ之レガ競争者タル外國人取扱ノ利子ニ對シ勢ヒ系價ヲ上騰セシメザルベカラズ然ラバ之レニ反シテ系價ヲシテ外人同等タラシメントスルカ荷主ノ損害ヲ免ル、コトヲ得ズ百方之レヲ講究スルモ畢竟シテ爲シ能ハザルノ實果ヲ見ルニ止ルノミ是レ保護ノ最モ必用アル所以ナリ

第四 外國人等ノ海外ニ於ケル實況タル各其本國ニ又ハ本社ニ或ハ組合員ニ友人等ニ種々親密ナル關係ト信用トヲ利用スルノ便アルヲ以テ即チ生系抵當借入金ノ便モアリ又約束手形賣却上等（就中米國紐育州ノ法律トシテ同州ノ法律ニ依リ之レヲ組織シタル會社組合ニ非ザレバ裁判上ノ不便且危險アリ及ヒ身代取調會社ノ公認アルモノニ非ザレバ手形ノ賣買ヲ爲スコト能ハズ其詳細ハ之ヲ別紙ニ記シテ參覽ニ供ス）凡ソ商業上ニ附帶シ普通欠クベカラザル組織ト便益トヲ有スルモノナリト雖モ日本人ノ外國ニ在テハ儲ニ其銀行ハ正金ノ一行ニ止リ其商人ハ一二指ヲ屈スルニ於テモ尙苦シムモノナルヲ以テ普通ノ便宜ヲ組織スルコト能ハズ是レ亦保護

必用ノ止ムヲ得ザルノ事情トス

故ニ之レヲ當時ノ橫濱市場ニ見合セ又外人トノ競争上其便否ヲ比較スルモハ其差違素ヨリ霄壤ナリト雖モ要スルニ其實際欠クベカラザルノ要件タルモノハ本法即チ海外市場ニ於テ現今橫濱ニ於ケルガ如ク爲荷荷仕拂ニ供スル生糸抵當貸與者ノアルヲ以テ足レリトス更ニ之レヲ再言スレバ日本銀行正金銀行ノ類ニシテ(普通内地銀行等ノ勇進能ク爲シ得ベキノ事業ニ非ズ)橫濱生糸抵當貸金ノ方法ヲシテ之レヲ海外ノ市場ニ移シ入レ以テ其市場ノ適度ニ隨ヒ便宜其方法ヲ施スニ在ルノミ然ルニ該兩銀行ト雖モ比シク是レ人民株主ノ組織ニ依リ之レヲ成立セシモノナレバ到底國益上即チ本法ノ如キ應分ノ保護アルニ非ザレバ是レ亦爲シ能ハザルノ事實ナリトス果シテ本法ヲ實施スルコトアルキハ之レニ依テ生ズル處ノ影響左ノ如シ

第一 利足金ノ差

海外年五朱
橫濱連年平均年制式歩餘ニ當ル

橫濱生糸抵當貸金ノ利子高低ハ種々ノ事情ニ依リ第七號表ノ如ク素ヨリ一ナラズト雖モ其平均凡ソ日歩三錢四厘三三三ニ當ル然シテ一ヶ年平均橫濱港ニ一萬個ノ荷數

ヲ積滯セシムルモノトスルモハ此金額總計凡ソ三百萬圓ニシテ此利子凡三拾六萬圓ナリ此利子ハ即チ荷主ノ損失ニシテ又生糸ヲシテ高價ヲラシムルノ助援ヲ爲スモノナリ然ルニ海外ニ於テ之レヲ低廉五朱ナラシムルモハ一ヶ年凡貳拾壹萬圓荷主ノ負擔ヲ減少スルノ利益アルヲ以テ爲シ得ベキノ限リハ必ズ直輸出ヲ増進セシムルノ傾向ヲ促スベシ

果シテ直輸ヲ促スモハ第一橫濱ノ一港ニ積累シテ販路ノ勢力ヲ微弱ナラシムルノ弊害ヲ薄クシ第二ニハ高利子ノ累積スルニ促進セラレ急迫低價之ヲ賣却スルガ如キノ弊害ヲ輕クシ販路路上從前見ル處ノ困難ヲ輕減セシムルコトヲ得ベシ

又海外ノ利子五朱ノ如キハ之レヲ内地ニ比較シ素ヨリ低下ニ過グルモノ、如シト雖モ我生糸貿易ノ事ニ至テハ總テ海外トノ比較ニ依リ外人トノ競争ニ當ラザルベカラズ果シテ然ラバ外國利子ノ割合凡四朱以上或ハ六七朱ナリトス之レヲ平均スルモハ即チ年五六朱ニ過ギズ故ニ之レヲ海外ノ平準ニ取り以テ五朱ト定ムルモハ即チ内外ノ差違前記ノ如ク五朱ト壹割貳歩ト僅ニ年七朱ノ相違ナリト雖モ其影響タル外ハ以

テ外人トノ競争ニ堪ヘ内ハ即チ荷主ノ勇進直輸ヲ促シ一方ニハ糸價ヲ上騰セシメズ
又一方ニハ急迫投賣等ノ關係アルニ於テハ決シテ小少ノ損害ニ非ザルベシ
右ハ僅ニ利子ノ差違ニ依リ其蒙ル處ノ影響ヲ概記セシノミニ止リ其他大體上ノ關係
ニ於テハ前記四項即チ

- 一 日本商人ヲシテ海外ノ市況ヲ知ラシムルコト
 - 二 横濱ノ一港ニ荷物ヲ積累シ以テ聲價ヲ低價ヲラシムルノ弊害ヲ除クベキコト
 - 三 内地製造家ヲシテ海外市場適當ノ製造方ヲ知ラシムルコト
 - 四 内外市場ノ糸價ヲ公平ナラシムルコト
- 右ノ四項目ノ目的ヲ達シ得ベキモノハ一ニ本法ノ設置如何ニ依テ定マルモノニシテ
其要全國經濟ノ得失ニ關係シ國家財源ノ存續ニ與カルコトハ今更再言ヲ待タザルベシ

○第四章 疑難 說明

論者或ハ云生糸販賣ノフォーマル之レヲ已往ノ實況ニ徴スルニ強テ海外直賣ノ必用ヲ見

ザルモノニシテ横濱港ニ已ニ其販路ヲ開發シ敢テ其困難ヲ感ズルモノナキガ如ク然
リ(第一項)況ンヤ又其販賣上ノ損益ニ至ラハ或ハ時ニ横濱賣ニ利アルコトアリ奚ゾ強
テ好テ海外直賣ノ必用ヲ説クヲ要セン(第二項)

疑難ノ前二項ノ如キハ市價相應ニ幾分ノ低價ヲ以テ外人ノ需用價額ヲ承諾スル
モノトスルキハ果シテ論者ノ言ノ如クナリト雖モ之ヲ明治九、十年頃迄ノ實況ニ
照シ見ルキハ即チ米國市價ト横濱トノ差違ハ現ニ直輸販賣ヲ試ミシニ依リ已ニ本
論ニ記述スルガ如ク一個ニ付壹百弗以上或ハ貳百弗迄ノ差違ヲ發見シタルノ實例
アルモノニシテ其國損タルコト今更言テ俟タズ然レモ爾來輸出ノ多額ナルニ隨ヒ貿
易ノ景況大ニ其面目ナ一變シ當時ニ在テハ内外人ハ勿論外人相互ノ間ニ於テモ一
電競争寸隙ヲ餘サマル一大市場トナリシヲ以テ決シテ一邑人ヲシテ其利益ヲ占有
セシムルコトヲ許サズ故ニ市場ノ價格自カラ平均ニ傾キ彼ノ從前ノ如ク巨額ノ差違
ヲ見ルコト能ハズト雖モ若シ一朝不幸ニシテ内國人ノ直賣ヲ廢止スルコトアルニ於テ
ハ第一海外市況ノ何物タルヲ(日本人ニテ)知ルモノチキチ利用シ或ハ時ニ抑揚ノ

空言ヲ流布シ又ハ時機ヲ隱蔽シテ互里霧中ニ在ルノ内商人等ヲ狼狽セシメ其價ヲ抑揚セラル、コトアルハ商業上普通ノ手段ニシテ又智愚者相對シテ損益ヲ決スルノ要所ナルコトハ勢ノ然ラシムル處ニシテ現ニ今日ト雖モ外國市場ニ一時聲價ヲ有スル生糸ノ如キハ百方奇術ヲ進ラシ横濱内商ヲ眩惑セシムルノ實例ニ乏シカラザルモノアルニ於テチヤ若シ輸出全額ノ生糸貳千六百萬圓ニ向モ僅ニ五歩(壹百圓ニ付五圓)ヲ損スルコトアルモ其損金額ハ壹百二十拾萬圓ナリ(生糸壹個ニ付拾五圓乃至貳三拾圓ノ高低ハ其當業者ト雖モ敢テ之レヲ怪シヤザルノ習慣アリ)宜シク深ク注意スベキ處ニシテ本邦輸出品中壹ケ年間其金高壹百萬圓以上ニ上ルモノ果シテ幾千アルヤ第二號表ニ照シテ之レヲ細視スベシ

又其製造上ニ於ケル横濱賣ハ使用者ト懸隔スルノ市場ナルヲ以テ轉々販賣ノ後始メテ使用者ノ手ニ入り其生糸ノ良否ヲ發覺シ細カニ其得失ヲ實驗セラル、モノナシルガ故ニ勢モ精練ヲ精査スルノ必用ニ乏シク終ニ良否ヲ混交シ徒ラニ外見上ノ虛飾ニ流ル、ノ弊ヲ免レズ故ニ現今ニ至ラハ地方製造家ニ於テモ能ク其事情ニ通ジ

横濱ニ賣ルモノハ自然精良製ヲ怠リ直輸出品ハ勉メテ正實ヲ要ス故ニ其正實ヲ勉ムルノ價值ハ自然使用者ノ信用ヲ固クシ又其勞働ニ對シ價格ヲ増スノ利益アリト雖モ彼ノ横濱ニ賣却シ去リタルモノハ到底使用者ニ嫌惡(其好惡ノ實況如何ヲ知ルヲ得ズ)セラレ漸々其信用ヲ失ヒ日本生糸ノ價格ヲシテ自然ニ低落セシメ隨テ販路ヲ壅塞シ以テ國家ノ利源ヲ退縮セシムルニ至ルベキハ現ニ當時ニ在テ既ニ其實例ニ乏シカラズ

疑難ノ第二項即チ横濱賣ニ利アリトスルノ論難ハ現ニ論者ノ言ノ如ク其實例ニ乏シカラズト雖モ細カニ其損益ノ依テ起ル處ノモノヲ推究スレバ決シテ一ニノ實例アルヲ以テ之レヲ斷定スベキモノニアラズ聊其利益アリシ場合ヲ摘記シ之レニ偏見スベカラザルコトヲ示スベシ

抑我横濱港タル彼我貿易ノ地位ニ非ズシテ要スルニ生糸製造者ノ之レヲ海外ニ輸出スルノ市場タリ故ニ東方ニハ米國ヲ得意トシ西方ニハ歐州ヲ得意トナシ以テ買客ノ起ルヲ待ツモノ、如シ故ニ或ハ時ニ米國ヨリノ買氣ニ隨フコトアリ又歐州ニ買

得セラル、ノ場合アルヲアリ其買氣ノ先ンズル處ニ隨ヒ以テ橫濱ノ系價ヲ高低セラル、モノトス又米國ヨリ起ルモノト歐州ヨリ起ルモノトニ就テ又大ニ其事情ヲ異ニスルモノアリ聊其大体ヲ論究スレバ彼ノ歐州ニテハ英國ヲ始メ伊佛ノ如キ全世界生糸ノ在荷ト當時ノ價格ト前途費消ノ景況トヲ案算シ若シ利益アリトスルモノアルホハ即チ商業者ノ見込ヲ以テ之レヲ買得スルノ力ヨリ起ルモノアリ然ルニ彼ノ米國ノ如キハ生糸商業ノ未ダ發達セザルガ爲メカ將メ歐州ノ地位ト商業上自カラ其事情ヲ異ニスルモノアルヲ以テノ故カ要スルニ米國ハ使用者ノ自業上實地必用ナル買得力ヨリ起ルモノニシテ已往數年間ノ實況ニ依ルニ

一 明治十七年頃迄ハ歐州ノ景況何トナク不穩ノ色ヲ含ミ終ニ其六月ニ於テ清佛東京ノ戰爭起リ續テ十八年ニ及ブ

一 同十八年三月頃ヨリ英魯ノ關係起ルノ類アリ夫レ如此ノ殺氣ハ平素歐土ノ夫ヲ蔽ヒ以テ彼ノ商人等ヲシテ貴重ノ資金ヲ投ジ以テ前途ノ利益ヲ進收スルガ如キ勇力ヲ發セシムル丁能ハズ然ルニ米國ノ如キハ歐州ノ何タルニ拘ラズ日進開發ノ

勢力ニ隨ヒ生糸ノ需用モ更ニ間斷アルヲナキノミナラズ益々需用ヲ増殖シ來リタルモノニシテ其如此ノ場合ニ於テハ橫濱系價ハ常ニ米國ニ誘引セラル、處トナリ即チ同國直輸生糸ノ利益アリシ年度ニシテ自然米國ヘノ輸出多額ナリシ原因ナリ又十八年ニハ系價低落ノ極度ニ達シ伊國ノ損害小少ナラズ終ニ國庫ノ收稅ヲモ影響スルノ景況アリシヲ以テ政府及銀行者一致協力同年十一月生糸買占メノ一策ヲ施シ大ニ其實効ヲ奏スルニ至レリ（即チ買占メ策ノ舉行以前ハ米國賣就中直輸品ニ利益アリシ場合ナリ）爾來歐州ノ平和ト賣占メ策ノ餘響ニ依リ（其他二三ノ原因之レニ加ハルモノナキニ非ズト雖也）明治二十年及廿一廿二年迄ハ時トシテ歐州商人多少ノ買得ヲ試ミ或ハ時ニ大ニ買得力ノ強勢ヲ顯スヲナキニ非ズ如此ノ場合ニ於テハ世界ノ市況ニ先ンジ最第一ニ其製造市場タル橫濱ノ如キニ向テ其生糸ヲ買得スルモノナルガ故ニ同港ヲシテ一時ニ世界第一等ノ高價ヲ顯出セシムルヲアルヲ見ル如此ノ時機ニ於テハ即チ橫濱賣ニ利益アリトスル場合ナリ又一二ノ小事ヨリ起ルモノト例ヲ舉グレバ左ノ如キモノアリ

外國機屋ニ於テ從前ノ織物見本ニ對シ特ニ日本生糸中必需ノ一品ヲ要スルコトアリ
而シテ其注文橫濱ニ到來シタル場合

外國市場ニ於テ信用ヲ來シタル日本生糸ヲシテ在橫濱外人等ノ競争起リ機屋ノ得
意ヲ收得セント企ツルハ當時ノ糸價ニ拘ハテズ多少ノ損失ヲ顧ミズ之レヲ高價
ニ買得シ以テ橫濱問屋及製造人ノ甘心ヲ得テ將來ノ得意買ヒテ爲サントスル場合

(此ノ場合ノ如キハ多ク新糸出荷ノ始メニ於テ顯出スルモノニシテ往々新市場ニ
一二三品意外ノ高價^{僅々ノ}ヲ見ルコトアルハ多ク此例ナリトス)如此ノ場合ニ於テハ

普通直輸シアル生糸ヲ外國市場ニ賣リシモノヨリ寧ロ高價ヲ得ルモノナキニ非ズ
凡ソ商業上ノ事タル素ヨリ之レヲ一定豫言スルコト能ハザルハ論ヲ俟タズト雖モ已往
現今ノ事實ニ依テ之レヲ見レバ即チ橫濱賣ニ利益アリシモノ凡ソ如此ナリ然レモ此
場合タル一ハ以テ外國ノ大勢ニ關シ一ハ以テ人爲ノ小事ニ起ルモノニシテ到底是レ
等ノ事情ニ依リ偶々橫濱賣ニ利益アルコトナキニシモ非ズトスルモ之レハ是レ前記ノ
場合ニ投ジ一ニ其人ノ或ハ益シ或ハ損スルモノアルニ止リ之レヲ以テ全國一般及將

來ノ損益ヲ豫定スルコト能ハズ況ンヤ連年直輸ヲ專業トスルモノ、如キハ其機屋ノ信
用ト製糸ノ益々適當ヲ勉ムルトニ依リ普通市價ノ平均ヨリ壹割以上乃至貳割ノ高價
ヲ占得スルモノアルニ於テチヤ繁リト雖モ更ニ論者ノ爲メニ壹歩ヲ退キ其直輸ト橫
濱賣ト平均其得失同クスルモノトスルモ已ニ本案ニ詳記スルガ如ク之レヲ全國ノ
經濟上ヨリ見ルハ彼ノ橫濱賣ハ勢上製糸ヲ粗製ニスルノ弊害ヲ免レズシテ直輸ハ
之レガ精良ヲ勉メシムルノ事實アリ共ニ損益ノ關係ヨリ來ルモノアルニ依ル果シ
テ然ラバ即チ將來日本生糸ノ信用ト販路ノ伸縮ト又日本商人等ノ智愚暗明ニ關スル
ガ如キモノニ至リテハ其得失素ヨリ比較シ得ベキモノニ非ズ加之徹頭徹尾日本人ノ
直輸業ヲ爲スモノアルニ非ザレバ之レガ便益ヲ得ルコト能ハザルモノアリ左ニ一二ノ
例証ヲ畧記スベシ

一 生糸ノ販路率ニシテ(明治廿二)年ノ如キ)敢テ其滯滞ヲ見ザルモノ如キハ之
レヲ海外市場ニ直輸シテ販賣スルモ或ハ之レヲ橫濱市場ニ坐賣スルモ(相場上ノ
損益ニ關スルモノハ前項ニ於テ之レヲ説明シ了レリ)平均上多ク其差違ヲ感ズル

トナキモノトスルモ若シ一朝販路ノ逆境ニ遇フコ(明治二十三年ノ如キ)アルハ
彼ノ海外ニ直輸シ平素其得意ニ向テ販賣シ來リタルモノハ其機屋ノ消費ニ應ジ順
次賣却シ盡シテ聊モ其滯留ニ苦シムノ跡ナキノミナラス漫ニ橫濱市場ニ累積シ徒
ニ賣却ヲ促スモノニ比スレバ其價格上ニ於テ或ハ一割以上ノ高價ヲ得ルモノアル
ハ積年間現ニ目撃スル處ナリ凡ソ販賣品ノ事タル之レテ順境ニ處スルモノハ恰モ
順流ニ船ヲ行ルモノニ異ナラズシテ深ク當業者ノ知能ヲ要セザルモノナリト雖モ
之レニ反スル逆境ニ處スルガ如キハ其困難素ヨリ言フベカラズシテ又之レテ如何
トモ爲ヌトテ得ズ然シテ其順境ニ得ルノ利益ハ多クハ其實數ニ乏シク其逆境ニ損
スルモノハ却テ其多額ナルヲ見ルモノナリ故ニ平素彼ノ逆境ニ處シテ其損害ヲ輕
減セシムルノ方法ヲ求メザルベカラズ他ナシ唯平素消費者ニ直賣シテ其信用ヲ厚
カラシムルノ一法アルノミ况ンヤ生糸ノ如キハ元來贅澤品ノ一部ニ屬スルモノナ
ルヲ以テ時勢ノ變動ニ感ズルコト最モ甚シク或ハ國交際ノ治亂ニ關シ又ハ天變ノ飢
饉ニ依リ其他婦人服ノ流行ニ左右セラル、等多般ノ關係ニ浮動シ普通ノ日用品ト

ハ持ニ順逆ノ變動ヲ頻繁ナラシム故ニ其逆境ニ處スベキノ用意ハ殊更其厚キヲ致
シ以テ公私ノ損失ヲ豫防セザルベカラズナルモノアルニ於テテヤ

二 海外織物ノ流行ニ依リ又ハ機屋ノ計算上ニ起リ特別製ノ生糸ヲ要スルコトアリ
其如此ノ場合ニ於テ日本人ノ親シク外國ニ在テ平素其機屋ニ親密ナルハ直接其
注文ノ要點ヲ詳悉シ之レヲ内地ノ本店ニ報告シ又其本店ニテハ直チニ地方製糸家
ト協議シ以テ其速カニ爲シ得ベキモノハ之レニ應ジ又其爲シ難キモノアルハ更
ニ生糸製造上ノ便否ヲ商量シ更ニ機屋ニ照會シ數回ノ往復ヲ經テ終ニ機屋ト製糸
家トノ便宜ニ合格シ大ニ製糸ノ販路ト改良ヲ導キ又機屋ノ満足ヲ得セシムルコト
然ルニ若シ日本人ニシテ外國機屋ニ平素直接スルコト便ナクシテ外國人ヲ其中間
ニ置キ橫濱問屋ハ更ニ海外ノ實況ヲモ知ルノ便ナク徒ラニ地方ノ荷受ケ外人ハ
賣込テ專業トスルモノ、ミニ歸着スルハ終ニ海外機屋ノ便宜ニ基ツキ内地製造
人ノ之レニ應ジテ特製物ヲ研究シ又注文品ニ應ズベキノ便宜ヲ求ムルコト道ナク實
ニ暗夜燈ナクシテ往クモノニ異ナラズ是等ノ如キハ特ニ日本人直輸ノ業アルニ依

テ起ル處ノ便益ナリ

又日本人ノ平素外國ニ在テ其市場ニ外人ト競争シ一瞬間モ怠ルコトナキハ機屋ノ需用聊強盛ノ色ヲ顯スノ場合ニ於テ其景況及注文等ヲ橫濱市場ニ電報シ來ル（内外人共）ハ普通ノ順序ナリ其如此ノ時機ニ際シ（日本生糸ノ正確ナル者ヲ要スルハ近來ノ經驗ニ依リ多ク日本人ニ依ルモノアリ其然ル以所ノモノハ要スルニ日本ハ内地ノ製造家ニ直接シ以テ生糸ノ精確ヲ精査シ之レヲ區別シテ需用ニ應ズルノ法ニ依ルモノナリト雖モ橫濱外人ノ買得シ去ルモノハ徒ニ荷物ヲ多額ナラシメ以テ一時ノ注文ニ應ズルコトノ難ク之レ勤ナルノ弊アルヲ免レズ故ニ眞正機屋ノ使用スル場合ニ臨ミ其困難ヲ感ゼシムルノ例アルヲ以テ其第一着手ニハ日本人ニ照會シ其品位及價格ニ依リ更ニ外國人ニ注文スルニ至ル是レ日本人ノ電報常ニ早キヲ致ス所以ナリ）テハ橫濱入電ノ遲速或ハ一二時間乃至二三時間ヲ爭ヒ以テ生糸ノ買入レニ從事スルモノナリ其當時ニ於テ幸ニ日本人ノ入電一分時間ニテモ其早キヲ得ルコトアルハ其外人ニ先ンジ同トナク橫濱全市場ニ其景況ヲ影響セシム

ルガ故ニ市況既ニ如此ノ色ヲ感得シ有ルノ場合ニ向テ外人ノ之レヲ買入レニ着手スルモ其相場上必ズ幾分ノ高價ヲ拂ハサルベカラズ之レヲシテ徒手茫然シアル場合ニ於テ突然外人ニ買得シ去ツルモノト之レヲ比較スルモハ敢テ之レガ精算ヲ要セザルモ其損益ノ差違アルコトハ今更細論ヲ待タザルベシ其如此ノ利益ハ又決シテ日本人ノ海外ニ在テ直接販賣スルモノアルニ非ザルモハ全國生糸ノ間接上之レヲ得ルコト能ハザルノ利益ナリ

或ハ云本案利子保護ノ法ノ如キ勢ヒ已ムテ得ザルノ事情ナキニ非ズト雖モ又現今全國ノ大勢ヲ洞觀スルモハ人民舉テ其重税ニ困シテ政費ハ多端ニシテ之レヲ省減スルニ道ナク勢ヒ從前保護利子ノ法アルモノト雖モ動モスレバ之レヲ廢止セントスルモノナキニ非ズ今此際ニ投ジテ更ラニ保護利金ノ支出ヲ新設スルガ如キハ最モ其時勢ニ伴ルモノナリト夫レ或ハ然ラン然レモ本案保護利子ノ事タル之レヲ内地ノ鉄道及北海道各會社ノ保護ニ比スレバ（此レ等ノ如キモ素ヨリ國益ノ大休ニ關シ萬止ムヲ得ザルノ事情アルニ依ルモノナルハ勿論ナルベシト雖モ）其緩急大小恐クハ同日ノ

論ニ非ザルベシ如何トナレバ日下國貿易ノ(第一號表ヲ參照スベシ)微弱ナル如此
ノアリ又如此ニ貴重ナル生糸取扱人タル内商人等ハ坐臥盲目徒ニ外人ノ鼻息ニ左右
セラレ製造人等ノ勉業ハ近年益々浮薄ニ流レ已ニ退歩ノ勢ヒチ生シ來ルノ今日
於テ伊國ノ生糸ハ愈益安價販賣精良ノ製ヲ勉メ以テ我販路ニ侵入シ支那製糸モ亦漸
々器械ノ良製ヲ企テ近年殊ニ旭日ノ勢ヒアルヲ見ル若シ之レヲシテ一任放棄シ保護
ノ法ヲ講ズルコトナキハ一時日本生糸ノ勢力ヲ發揚シ漸クニシテ現今迄ノ國益
ヲ増進セシメタル彼ノ米國販路ノ如キモ日ナラズシテ却テ他人ノ所得ニ歸スベキノ
實況アルハ決シテ疑ヲ容レザル處ナリ果シテ然ラバ國家ノ大事已ニ目前ニ急迫シ來
ルモノニシテ凡ソ事ヲ慮スル緩急自カラ時アリ内地ノ事業假令何等ノ急アリトスル
モ内外國ノ競争目下如此ニシテ其損益ハ每日之レヲ瞬目間ニ決シツ、アルモノニ凡
スレバ其緩急果シテ何レゾ況ンヤ民力ノ充實セル英佛其他ノ諸國ニ於テモ苟シクモ
國家ノ損益ニ關スルモノアルニ於テハ其事ノ事情ニ應ジ敢テ憚ル處ナク適宜ノ勸獎
及保護ノ法ヲ設ケテ以テ國利ノ増進ヲ是レ勉ムルノ例証ハ之レヲ枚舉スルニ遑アラ

ズ其甚ダシキニ至テハ海陸兩軍ノ運動ヲ起シ來ルモ要スルニ國家ノ損益如何ニ關シ
テ之レヲ進退セシムルモノニ外ナラズ今我日本領國ノ制ヲ廢シテ開國ノ國是ニ依ル
モノナルモハ即チ國貿易ノ大事ニ關シテハ勇猛決心ノ力モ亦如此ヲラザルヘカラズ
加之此保護利子ノ金員タル一ヶ年凡拾萬圓乃至三拾萬圓ニ過ギサルモノニシテ之レ
ヲ平均スルモハ僅カニ拾五萬圓ニ止ルベキモノトス即チ之レヲ生糸輸出ノ全額貳千
六百六拾壹萬六千圓餘(明治廿二年度)ニ比スレバ其歩合僅カニ千分ノ五、六餘ニ當リ
又生糸附屬品ハ之レヲ除ク輸出稅額即チ明治廿二年度九拾七萬三千九百圓ニ比ス
レバ其歩合一割五歩四厘餘ニ當ルモノニシテ然シテ輸出ノ盛否ハ一ニ生糸製造ノ良
否ニ關スルコト素ヨリ小少ナラズ試ミニ米國販路開發以前ノ製造即チ提糸ナルモノ及
鉄鉋造リナルモノト又該市場ニ適センガ爲メ改製シタル坐繰揚ダ返シ即輸造リ又ハ
折返シ造リナルモノ、類ト其相庭ノ差違ヲ比較シ見ルモハ數年間上中下品ノ相庭ニ
依リ多少ノ高低ナキヲ免レズト雖モ凡明治十四年以來ノ平均ハ和百斤ニ付壹百〇五
弗ノ高價ヲ得タルモノニシテ即チ改良生糸ノ國益ヲ増進セシメタルコト明白ナリ然シ

彼ノ從前提系其他ノ類ニシテ之レヲ改良系ニ變換シタルモノ、大數ヲ見ルニ上武
信州及奥州等所謂本場ナルモノニシテ凡ソ壹萬個（或ハ年ニ増減アリ其他統計ノ方
法之レヲ詳ニスルコト得ズ唯目前橫濱市場ニ登ルモノ、員數ニ依リ其大數ヲ定ムル
ノミ）ナルベシト云フ即チ和百斤ニ付壹百〇五弗ノ差益ハ實ニ五拾七萬七千圓餘、
巨額ナリ又此改良製アリシヲ以テ爾來漸々新設又ハ創業セシモノモ普通此改良ニ依
ラザルハナシ今之レヲ算入セズト雖モ其改良ノ國ヲ益シ後進者ナシテ其取捨ノ向フ
處ヲ知ラシメ併セテ改良ヲ爲サシメタルノ利益ニ至テハ之レヲ算數スルニ違マアラ
ズ然レモ此改良製ノ爲メニ每人或ハ會社組合等ニ在テハ或ハ損シ或ハ益シ興廢一ナ
ラザルモノアリト雖モ之レハ是レ其擔當者ノ得否巧拙ニ關スルモノニシテ（本業ノ
ミニ限ルニアラズ）敢テ之レガ得失ヲ問フテ要セズ必竟スルニ内國人相互ノ損益ニ
止ルノミ然シテ我國家問題ノ貿易全体ノ上ニ於テハ實ニ改良生糸ノ爲メニ得タル處
ノ金員其比較ヲ調シ得ベキモノ、ミニシテ前記五拾七萬七千圓也之レヲ保護金額一
ヶ年拾五萬圓ニ對比レ見ルモハ其得失亦以テ明瞭ナルベシ況ンヤ後進者ノ新タニ増

進セシモノハ之レヲ此金額内ニ算入セサルモノアルニ於テチヤ
論者希クハ當時國費ノ多端ナルニ際シ其保護ノ法ノ如キモ宜シク其金額ノ少ニシテ
其益ノ多キモノ及其爲ス處簡ニシテ其關係ノ大ナルモノ又其功一局部ニ止ルモノヨ
リモ寧ロ全國ノ經濟ニ影響スルモノヲ精査シ最モ其急ナルモノヲ採リ緩ナルモノヲ
去リ以テ其施行ノ前後宜シキヲ誤ルコトナカラシムヘシ

○第五章 參考書

米國紐育府ニ於テ外國人ハ勿論該州外ノ法律ニ隨ヒ組織シタル會社組合等ノ危
險及金融上ノ困難アル事左ノ如シ

第一項 米國紐育州ニハ千八百七十六年第四百四拾八號ヲ以テ制定シ其後追々改正
シタル訴訟法（第七編第三章第一條六百三十五項）アリテ凡ソ紐育州外ニ住居スル會社即
チ法人又ハ其他一般ノ人ニ對シ違約又ハ匪行ニ基ク損害要償ノ訴訟ニ於テ其原告
タルモノハ起訴ノ始ニ先ツ以テ財産差押ノ處分ヲ請求スルコトヲ得バク又被告タ

ル者原告訴訟ノ基本ナキコ又ハ財産差押令狀ノ果シテ無基本ノ請求ニ由來スルコト等ヲ掲ゲ以テ該令狀ノ執行ニ對抗スルコトヲ得ズ而シテ該令狀ノ執行官ハ被告ノ財産ヲ取上ゲ之ヲ其手ニ掌握スベシト制定ス然リ而シテ日本人ニシテ其本國ノ法律ニ依リ組織セラレタル會社及組合ハ即チ日本國ニ在ルモノニシテ即チ紐育州外ニ在ルモノタルコト勿論ナレバ其會社組合ニシテ紐育州内ニ入り來リ商業ヲ營ミ而シテ違約アリ匪行アリト號シ以テ訴訟ヲ仕向ケ來ルモノニ遭ハバ忽チ其紐育州内ニアル支店又ハ出張店ハ爲メニ財産差押ノ處分ヲ蒙リ其實營業禁止ニ異ナラザルノ慘況ニ陷ルニ至ルコトハ勿論ナリ然ルニ紐育州内ニ住居シ即チ紐育州ノ法律ニ依リ成立シタルモノニ至テハ逃亡又ハ財産藏匿等格別ノ事故アル時ノ外ハ斯ル差押處分アルコトナシ其安危ノ差違アル素ヨリ皆テ俟タズ是レ商業上ノ信用ニ於テ影響スルモノアリ

但從前日本ノ直輸者ニ於テハ御用爲替ノ金融ニ附帶シ其業務ヲ營ムモノナリシガ故ニ該府人民ニ對シ當ニ權利者ノ地位ニノミニ立フモノニシテ之ガ義務者メルノ地位ニ立ツモノハ一ニ其取扱者タル正金ノ一銀行ニ對スルアルノミ故ニ本條ノ危險アルモ敢テ之レヲ問フヲ要セザリシ

又

第二項 日本ノ法律ニ隨ヒ組織シタル會社又ハ組合ナルモノハ其本國ニ在テ何程許多ノ資金ヲ所有スト云フト雖モ苟シクモ一定ノ資本金ヲ紐育州内ニ持往キ以テ同州法律ノ管轄内ニ差入レ置一定ノ時限間該會社及組合ニ於テ勝手ニ動カシ得ザル仕組ニ爲サメル以上ハ恰モ月ノ世界ニ在ルモノ、如ク思意シ米國人ナシテ其商業及ヒ金融上ニ信用ヲ置カシムルコト能ハズ

但本條ノ組織タル當時外國貿易不練ノ日本人ニシテ容易ニ之ヲ爲シ能ハザルハ勿論ナリ然レモ從前ノ如キハ幸ニシテ御用爲替ノアルアリシヲ以テ外人ニ向テ強テ其金融ヲ求ムルノ必用ナクシテ其發達ヲ致シタルモノナリ

又

第三項 紐育商人普通ノ金融ヲ爲サントスルコトハ即チ第二項ノ如ク紐育州ノ法律ニ

依リ其會社又組合ヲ組織シタル上ニテ更ニ身代取調會社ニ加入シ該社ノ規則ニ隨
ヒ年々若干ノ資金ヲ該社ニ投入シ而シテ自己ノ會社又ハ組合ノ資本金及其組織ヲ
明瞭ニシ豫メ之レヲ身代取調會社ニ報告シ置クハ勿論時トシテ該取調會社ノ調査
員來ルルハ何時ニテモ會社組合等ノ計算及其實況ヲ明示スルヲ要ス若シ如此ノ手
續キヲ爲シ置カザルルハ假令許多ノ資本金ヲ有シツ、アルモ其會社及組合等ノ振
出シタル手形及ビ裏書シタル手形ヲシテ之レヲ市場ニ賣買スルモノナキモノトス
奚ゾ得テ外人ト競争資本ノ運用ヲ爲スヲ得ベケンヤ

但御用爲替ノ存在中ハ第二項ノ但書ノ如ク外國市場ニ於テ特ニ金融ノ必要ヲ感
ゼシメザルノミナラズ又強テ之レヲ爲サントスルモ素ヨリ爲シ能ハザルノ事實
ナリシ

以上ノ事故アルニ起因シ金融上尙幾多ノ障礙ナキニ非ゾト雖モ實ニ商業上微密ノ感
動ニ涉リテハ能ク筆記ノ及ブ處ニ非ザルヲ以テ今之レヲ畧シ更ニ之レヲ概言スレバ
左ノ如シ

一日本人即チ日本國ノ當時海外貿易ニ幼弱ナル又資金ノ微薄ナル勢ヒ其事業
テ外人ト共ニシ又其資本ヲ平均合同スルノ地位ニ達スルヲ能ハザルヲ以テ其實
本者即チ金融者モ亦其事業者モ共ニ日本人(即チ正金銀行ト同仲會社トノ如ク)
ニシテ便宜救應漸次之レヲ發達セシムルノ外ナキナリ

以上

第一號表

歲出入及輸出分頭比較表

本表總スル歲出入ハ單ニ國庫ノ收支ニ係ルモノ、モシヤ種方比價表等ノ額ハ之レヲ算入セザルモノトス
又分頭出入ニ對スル分頭輸出ノ割合ハ歲出入總額ノ多少ニ比較シ得入ニ付テノ割合ヲ示シタリ
又分頭輸入ノ割合ハ歲輸入總額ノ多少ニ比較シ得入ニ付テノ割合ヲ示シタリ
又分頭輸出ノ割合ハ歲輸出總額ノ多少ニ比較シ得入ニ付テノ割合ヲ示シタリ
又分頭輸入ノ割合ハ歲輸入總額ノ多少ニ比較シ得入ニ付テノ割合ヲ示シタリ

大日本		英國		米國		佛國	
入口	出口	入口	出口	入口	出口	入口	出口
三五六八〇二〇	三三三八七一四六六	三三六三二五一五	三三六三二五一五	三三三六九〇七〇六	三三三六九〇七〇六	三三二一八〇五	三三二一八〇五
二八四四八四二	二九六七二六四七	四四七九〇六五〇	四四七九〇六五〇	二六〇二二六九三五	二六〇二二六九三五	三〇七〇一七八〇	三〇七〇一七八〇
六四七一二八六二	六三五四四一一三	八八五二九九九六五	八八五二九九九六五	五八三九一七六四一	五八三九一七六四一	六二一五三、五八五	六二一五三、五八五
壹圓八拾壹錢	壹圓六十九錢	壹圓七十五錢	壹圓七十五錢	壹圓七十五錢	壹圓七十五錢	壹圓七十五錢	壹圓七十五錢
三五六八〇二〇	三三三八七一四六六	三三六三二五一五	三三六三二五一五	三三三六九〇七〇六	三三三六九〇七〇六	三三二一八〇五	三三二一八〇五
二八四四八四二	二九六七二六四七	四四七九〇六五〇	四四七九〇六五〇	二六〇二二六九三五	二六〇二二六九三五	三〇七〇一七八〇	三〇七〇一七八〇
六四七一二八六二	六三五四四一一三	八八五二九九九六五	八八五二九九九六五	五八三九一七六四一	五八三九一七六四一	六二一五三、五八五	六二一五三、五八五
壹圓八拾壹錢	壹圓六十九錢	壹圓七十五錢	壹圓七十五錢	壹圓七十五錢	壹圓七十五錢	壹圓七十五錢	壹圓七十五錢
三五六八〇二〇	三三三八七一四六六	三三六三二五一五	三三六三二五一五	三三三六九〇七〇六	三三三六九〇七〇六	三三二一八〇五	三三二一八〇五
二八四四八四二	二九六七二六四七	四四七九〇六五〇	四四七九〇六五〇	二六〇二二六九三五	二六〇二二六九三五	三〇七〇一七八〇	三〇七〇一七八〇
六四七一二八六二	六三五四四一一三	八八五二九九九六五	八八五二九九九六五	五八三九一七六四一	五八三九一七六四一	六二一五三、五八五	六二一五三、五八五
壹圓八拾壹錢	壹圓六十九錢	壹圓七十五錢	壹圓七十五錢	壹圓七十五錢	壹圓七十五錢	壹圓七十五錢	壹圓七十五錢

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50

第二號表 (甲) 總輸出入額及重要輸出品一覽表

明治年度	總輸出	總輸入	輸出入合計	棉	內一百萬以上	米	生銅及熟銅	生糸及熟糸	茶	絹手巾石	炭	マツ子	鐵器、陶器
元	15,553,472	12,908,978	28,462,450	6,253,473	4,004	4,004	11,987	11,987	11,987	11,987	11,987	11,987	11,987
一	17,968,608	17,026,647	34,995,255	8,955,000	5,205,237	5,205,237	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542
二	14,543,012	17,968,608	32,511,620	4,004	4,004	4,004	11,708	11,708	11,708	11,708	11,708	11,708	11,708
三	17,968,608	17,026,647	34,995,255	8,955,000	5,205,237	5,205,237	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542
四	17,968,608	17,026,647	34,995,255	8,955,000	5,205,237	5,205,237	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542
五	17,968,608	17,026,647	34,995,255	8,955,000	5,205,237	5,205,237	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542
六	17,968,608	17,026,647	34,995,255	8,955,000	5,205,237	5,205,237	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542
七	17,968,608	17,026,647	34,995,255	8,955,000	5,205,237	5,205,237	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542
八	17,968,608	17,026,647	34,995,255	8,955,000	5,205,237	5,205,237	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542
九	17,968,608	17,026,647	34,995,255	8,955,000	5,205,237	5,205,237	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542
十	17,968,608	17,026,647	34,995,255	8,955,000	5,205,237	5,205,237	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542
十一	17,968,608	17,026,647	34,995,255	8,955,000	5,205,237	5,205,237	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542
十二	17,968,608	17,026,647	34,995,255	8,955,000	5,205,237	5,205,237	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542
十三	17,968,608	17,026,647	34,995,255	8,955,000	5,205,237	5,205,237	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542
十四	17,968,608	17,026,647	34,995,255	8,955,000	5,205,237	5,205,237	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542
十五	17,968,608	17,026,647	34,995,255	8,955,000	5,205,237	5,205,237	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542
十六	17,968,608	17,026,647	34,995,255	8,955,000	5,205,237	5,205,237	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542
十七	17,968,608	17,026,647	34,995,255	8,955,000	5,205,237	5,205,237	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542
十八	17,968,608	17,026,647	34,995,255	8,955,000	5,205,237	5,205,237	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542
十九	17,968,608	17,026,647	34,995,255	8,955,000	5,205,237	5,205,237	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542
二十	17,968,608	17,026,647	34,995,255	8,955,000	5,205,237	5,205,237	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542
廿一	17,968,608	17,026,647	34,995,255	8,955,000	5,205,237	5,205,237	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542
廿二	17,968,608	17,026,647	34,995,255	8,955,000	5,205,237	5,205,237	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542	11,542

第二號表 (乙) 總輸出品ニ對スル生糸見較ベ表

明治年度	總輸出	和	內生糸輸出	總輸出高ニ對スル生糸割合
元	15,553,472	1,123,951	6,253,473	4割
一	17,968,608	7,360,466	5,720,181	4割
二	14,543,012	6,833,362	4,378,752	3割
三	17,968,608	13,333,435	8,004,244	4割
四	17,968,608	13,333,435	8,004,244	4割
五	17,968,608	13,333,435	8,004,244	4割
六	17,968,608	13,333,435	8,004,244	4割
七	17,968,608	13,333,435	8,004,244	4割
八	17,968,608	13,333,435	8,004,244	4割
九	17,968,608	13,333,435	8,004,244	4割
十	17,968,608	13,333,435	8,004,244	4割
十一	17,968,608	13,333,435	8,004,244	4割
十二	17,968,608	13,333,435	8,004,244	4割
十三	17,968,608	13,333,435	8,004,244	4割
十四	17,968,608	13,333,435	8,004,244	4割
十五	17,968,608	13,333,435	8,004,244	4割
十六	17,968,608	13,333,435	8,004,244	4割
十七	17,968,608	13,333,435	8,004,244	4割
十八	17,968,608	13,333,435	8,004,244	4割
十九	17,968,608	13,333,435	8,004,244	4割
二十	17,968,608	13,333,435	8,004,244	4割
廿一	17,968,608	13,333,435	8,004,244	4割
廿二	17,968,608	13,333,435	8,004,244	4割

第三號表 生糸輸出先國別表

明治年度	歐洲諸國へ	米國へ	歐米合計
元	11,987	11,987	23,974
一	11,542	11,542	23,084
二	11,708	11,708	23,416
三	11,542	11,542	23,084
四	11,542	11,542	23,084
五	11,542	11,542	23,084
六	11,542	11,542	23,084
七	11,542	11,542	23,084
八	11,542	11,542	23,084
九	11,542	11,542	23,084
十	11,542	11,542	23,084
十一	11,542	11,542	23,084
十二	11,542	11,542	23,084
十三	11,542	11,542	23,084
十四	11,542	11,542	23,084
十五	11,542	11,542	23,084
十六	11,542	11,542	23,084
十七	11,542	11,542	23,084
十八	11,542	11,542	23,084
十九	11,542	11,542	23,084
二十	11,542	11,542	23,084
廿一	11,542	11,542	23,084
廿二	11,542	11,542	23,084

明治元年ヨリ六年ニ至ル迄ハ曆年度ニシテ七年以下ハ總テ其年七月ヨリ翌年六月迄ヲ一年度ト爲サタルモノナリ左レバ七年ノ上半年間ニ於ケル分ハ其數ヲ載セザルモノト知ルベシ



第四號表

内國商生糸直輸表

明治年度	國社名	開通社	三井物産會社	同伸會社	日本商會	貿易商會	安西德兵衛	扶桑商會	山田駒吉	イロハ商會	合計
十三年七月ヨリ 十四年五月マデ	米 英 佛	六三二 二八七 一四〇八	一〇九	一〇七							二八五〇
十四年七月ヨリ 十二月迄	佛、英、米	一五五	一八六	一二六〇	七三	二八〇一	二二三	一六四			三五六二
十五年	米 英 佛		一四	一三七九	二九	四八七			八八		三五〇六
十六年	米 英 佛		一五三	七三五		一五四六			二二	二〇四	七〇三四
十七年	米 英 佛	一一三 三八		三九七		二〇七九				八一	五八九六
十八年	米 佛			二八三		一三五〇					三一五八
十九年	米 佛			一三八五		一四〇〇					三六三六
二十年	米 瑞 佛			二五二九		一〇一九					四〇九一
廿一年	米 伊 佛			一九五六		一三三					三三〇二
廿二年	米 佛			四五三		六三四					三三〇二
				三五六一		四〇					三二七六
				二二七五		三〇五					三二七六
				七五三							三二七六
				一一二一八							三二七六

前記開通社ノ分ハ他ノ直輸者ノ依頼ヲ受テ同社ニ於テ船積ノ手數ヲ爲セル迄ニシテ其實佐藤組、二本松製糸會社、佐野組等ノ手ニ出テタルモノナリ



第七號表

橫濱市場ニ於ケル生糸荷爲替目步

明治 年 度	日	步	年	期
十 五 年	五 錢			
十 六 年	四 錢 五 厘			
十 七 年	三 錢 七 厘			
十 八 年	三 錢 五 厘			
十 九 年	貳 錢 八 厘			
二 十 年	貳 錢 四 厘			
廿 一 年	三 錢			
廿 二 年	三 錢			
廿 三 年	三 錢 三 厘			
平 均	三 錢 四 厘			
		壹 割 貳 步 三 厘 六		

明治二十四年一月

日印刷

明治二十四年一月

日出版

編輯者兼發行者

星野長太郎

東京麹町區飯田町四丁目八番地

印刷者

山崎芳藏

橫濱本町六丁目八十二番地

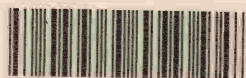
印刷所

橫濱活版舍

（非賣品）

小野寺文庫

群馬県立図書館



0497079-4